

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第 11 回 立川市地域福祉推進委員会・第 5 次立川あいあいプラン 21 推進委員会 合同会議（オンライン開催）
開催日時	令和 4 年 12 月 15 日（木曜日）午後 1 時 00 分～3 時 00 分
開催場所	オンライン会議、立川市総合福祉センター（2 階 視聴覚室）
次第	1. 委員長あいさつ 2. 前回のふりかえり 3. 「中間評価について」、 4. その他
配布資料	1. 第 11 回議事次第 2. 第 10 回議事要旨 3. 地域福祉推進のための指標づくり報告書 4. 中間評価（市） 5. 中間評価（社協） 6. 重点取組項目中間評価
出席者	[委員] 熊田博喜（委員長）、宮本直樹（副委員長）、伊藤正人、井村良英、菅根浩子、高田利花、文淑礼、宮崎彩乃 [事務局] <立川市> 小平真弓（地域福祉課長）、高橋知宏（地域福祉推進係長）、石丸亮太（地域福祉推進係） <立川市社会福祉協議会> 山本繁樹（地域活動推進課長）、柳澤実（地域づくり係長）、小林理哉、高橋美季、内金崎快（地域づくり係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	以下の通り
その他	以下の通り
担当	立川市 福祉保健部 地域福祉課 地域福祉推進係 電話 042-523-2111（代表）

主な意見、質疑応答

【1. 委員長あいさつ】

<委員長>

本日のポイントは「中間評価」。コロナ禍で思うように進まないことも多々あると思うが、計画を進めるうえで困っていることについて委員の皆様から意見をいただきたい。

【2. 前回のふりかえり】

<事務局（市）>

- ・開催日時の修正。（正）令和4年10月11日（火曜日）午後1：00～3：00
 - ・重点取組項目は委員会で作成したロジックツリーを活用して評価を実施する。
 - ・重点取組項目以外の中間評価については、中間評価進捗管理表を用い実施し、今回の委員会にて結果を報告する。
 - ・アウトプット、アウトカムのようなカタカナ表記についても、日本語表記に修正して使用する。
- ロジックツリーの成果（アウトカム）の部分を各重点取組事項の達成目標に置き換え、課題と今後の方向性をまとめ評価を実施した。
- ・ふじみ町みんなのおうちでは、アンテナショップとしての活動中に事故が起きた場合の責任の所在が不明確な点がプレッシャーになっているとの意見があり、他のアンテナショップ、委員の意見を確認し、必要に応じて行事保険をかけていただくことを確認した。
 - ・作業部会として、2か所の全部型アンテナショップ視察を実施されたことを報告した。

【3. 中間評価について】

<委員長>

- ・ロジックツリーについて、いくつか方向転換をしている点があるので事務局から説明いただく。

<事務局（市）>

- ・量的評価だけでなく、質的評価、プロセス評価も組み合わせて評価することが重要であることを説明した。（資料2「1 指標の必要性と役割について」）
- ・地域福祉推進のための4つの要件について説明した。（資料2「2 地域福祉推進のための4つの要件」）
- ・評価方法について、評価基準を説明した。（資料2「3 評価の方法について」）

<委員長>

- ・評価は目的ではなく、評価により計画を進めるうえで困っていることに対処していくことが大切である。
- ・ロジックツリーは今後評価のトレンドになると思われるが、今回の評価にはうまく当

てはまらないため、上記4つの要件により評価を行うこととした。

<事務局（市）>（資料3）

・地域福祉課で庁内各課にヒアリングを実施し、そこで得た内容を上記4つの要件に振り分けを行い、重要ポイントをピックアップした内容となっている。

・量的評価はコロナ禍の影響もあり、いずれの項目についてもC評価となった。

・質的評価、プロセス評価については、資料のとおりだが重要表現は赤字にした。

→孤立を望まない孤立防止がポイントと認識している。

・委員の皆様にご意見をいただきたいことは、「人材育成」、「孤立防止を目的とした外出支援のあり方」、「重層事業の参加支援について、団体・法人等との連携の取り方」である旨を説明した。（例）ひきこもりの社会参加等

<事務局（社協）>（資料4）

・具体的な数値目標が計画に記載されている項目もあれば、記載のない項目もある。

・市と同様に課題のポイントは赤字にて表現した。

・アンテナショップの多くが平日の日中に活動を実施している。多機能拠点として、夜間や休日の活動により、参加者の裾野が広がるだろうか？

・集客、活動内容について、苦労しているアンテナショップがある。

・具体的なテーマ設定、当事者性を打ち出す必要があるが、一方でテーマを絞ると明確化できるが、多様性とのバランスが難しい。

・後継者不足、新たな取組と時代に対応できるかが課題である。

・相談の場としては、専門職もしくはそれに近い方が常時いることが理想であるが、うまく機能するためにはその体制整備が課題である。

・地域づくり以外の面においても計画に沿った動きも見られる。

（例）くらすポの生活支援、成年後見の中核機関を担うあんしんセンター等

・「総括」の欄には、どこまで進んで何が欠けているのかを記載している。

<委員長>

・地域人材の育成は、元々手こずっていて、コロナで拍車がかかったのか？

（例）民生委員の欠員地区が多いこと、自治会加入率が落ち込んでいること等

<委員>

・自治会加入率は、コロナ禍とは直接関係ないと思われる。元々落ち込んでいる傾向があった。

・コロナ禍によるというよりは、価値観の変化により若い世代が加入しない。

・平成31年3月25日「立川市自治会等を応援する条例」が施行されたが、なかなか加入率は増えない。

・高齢化が進み、活動もままならない。（立川市だけの問題ではなく、全国的に挙げられる問題）

<委員>

- ・民生委員をやめる人は増えており、それを引き留めるのに苦勞している。
- ・なんとか機能は維持できているが、いちごっこのように問題に対処し、常に後継者を探している。
- ・「価値観をどう持つか？」地域貢献は無理のないところからできることを気付いてもらうことが大切で、どのように気付きを与えるか？がポイントとなる。

<委員>

- ・人材育成について、地域に眠っている人材は多い。
 - ・(それぞれのスキル等) 何かに活かしたいけど、どこで活かせばいいのか？今さら表に出ていきにくい。といった心情もあるのではないかな。
 - ・「〇〇という人材が必要です！」ということを示すことが必要なのではないかな。
- (スキルの活かし方等について) ワークショップ等の企画もひとつの対策になりうるのではないだろうか。

<委員>

- ・助成金の仕組みを地域活動に活かしてほしい。

<委員長>

- ・人材はいるはずだが、どう発掘していくか。
- ・いきなり町会や自治会へ参加ということは、若い世代には抵抗があるのではないかな。
- ・普段の活動の中で、町会、自治会へとつながれば良い。
- ・ワークショップで人材を発掘できた場合、徐々に慣らししていきながら適切につなげていくことが大切。

<事務局(社協)> (資料5)

- ・中間評価において、ロジックツリーをそのまま使用するのではなく、資料5のようにロジックツリーの成果(アウトカム)部分为目标とし、これまでの取り組み、課題、今後の方向性で評価を行った旨を説明した上で、3つの重点取組項目における中間評価を説明した。

① 地域福祉アンテナショップの設置について<事務局(社協)>

- ・地域の特性により全部型地域福祉アンテナショップがあるところ、協働型地域福祉アンテナショップがあるところと様々なので各地域ごとに報告した。
- ・【第1地区】エリアの特性上、会場費の確保に苦慮している。メインターゲット以外に向けた取組の方向性。
- ・【第2地区】(トワイライトステイについて、) ターゲットの再検討等、気軽に立ち寄れるためのポイントは何かな。
- ・【第3地区】マンション集会室の活動可能性と居住者のプライバシー防犯性の確保のバランス。企画運営に携わる個人、グループの獲得に苦慮している。
- ・【第4地区】協働型アンテナショップの拡充策(社会貢献性等の事業所メリットの模

索等)。「福祉色」を取り除くアプローチのしかたとは。実行委員会主体からボランティア主体への移行についても検討していく。

- ・【第5地区】(公共施設に限らない) 活動場所の確保のためのアイデア。関係機関との協働や運営資金の確保方法、農福連携の具体的な活動メニューについて。

- ・【第6地区】地域福祉アンテナショップの在り方や地域福祉アンテナショップから新たな交流が生まれる仕組みとは。場所を提供する側・提供される側のマッチングについて。

② 地域福祉コーディネーターの活動強化について<事務局(社協)>

- ・中間評価案に基づいて説明した。

③ まるごと相談支援について<事務局(市)>

- ・中間評価案に基づいて説明した。

<事務局(社協)>

- ・「意見をいただきたいポイントシート」について説明した。

<委員長>

- ・すべての項目についての議論は時間的に難しいため、主に以下の項目を取り上げる。

→A 新しい住民層の取り込みについて

→B コーディネーターの役割の可視化について(見える化)

→C 伴走支援の普及啓発手法について(どれだけ多くの市民の協力が得られるかの働きかけ方)

<委員長>

- ・BASE☆298は、外観からは何をやっているのかわからないと言われるか?

<委員>

- ・(初めて来る方にとっては)外観で怪しい所と思われたり、入るのに勇気がいる等の意見があった。

- ・初めての方は入りにくいかもしれない。

<委員>

- ・高い理念を掲げれば掲げるほど、怪しいと思われるので、アンテナショップが公的なものだという認知が上がっていくことが重要。

<委員長>

- ・何をやっているかよくわからないということは多機能拠点となる故のアンテナショップの宿命でもある。

- ・福祉色は前面に出さないほうが良い。

→新しい人をどう取り組んでいくかがポイントとなる。

<委員>

- ・法人がバックについているということで、何かあったとき、自分が1番の責任を負わないで済むことがボランティアさんの活動の奥にはあるのではないだろうか。

・ボランティア活動は、やりたい人にやってもらいたいと思うが、一方で得体の知れない人にいきなりどうぞとは難しい。

<委員>

- ・ネットワークよりフットワーク。まずは、やることが大事。
- ・今は地域の役に立つことよりも楽しいことはたくさんあるから、やったことがないと地域の役に立つことが youtube を見るよりよっぽど楽しいことに気付けない。
- ・活動規模は大きくしすぎないほうが良い。

→多くとも 20 名程度の小さい規模のユニットが地域にたくさんある方が気軽に動ける。

- ・「あたみ」は全員がボランティア、そこにいることに価値がある。(尊厳)
- ・数値も大事だが、これからはエピソードが大事。

<委員>

- ・地域福祉コーディネーターは、もっと活動が増えて、もっといろいろできると思う。
- ・殻を破って活動してほしい。

<委員>

- ・傾聴クラブみたいな組織が全地域にあると良い。(現在、錦町、一番町に 1 か所ずつ)
- 特別な存在としてではなく、同じ立場で受ける。こういうところから人材発掘してほしい。

<委員>

- ・新たな層の取り込みについては、「居場所は人につく。」ため、狙っている層の方にまずスタッフや講師としてお招きしてコミットを深めるといいかもしれない。

<委員>

- ・地域人材の育成については、抜本的な位置づけなおしが必要になるかもしれない。
- 今は 60 代もまだ現役、共働きが普通、若い世代はこれからどんどん減っていく状況をふまえて積極的なアプローチが必要。

- ・地域人材の担い手探しは「紹介制」が基本だった。これはとても重要な手法だが、人口が減っていく中でこれまでと違った取り組みについて試していくことも必要。

<委員>

- ・図書館をにぎわいの場所に！

→一言でも話ができるところと位置づけ直せば良いのではないかな。

→市民がムーブメントを起こせば、変わるかもしれない。

- ・「活動場所がない。」ということは、すべての居場所活動のテーマにもなっている。公的施設のこれまでの使い方を見直すという観点で場所の開拓をしてもらえないかな。
- 学校の図書室を地域福祉アンテナショップの場になると学校側も助かる内容であれば可能かと思う。

→『闘う図書館』（無料の貸本屋と揶揄されていた公立図書館が地域活動の中心になってきたアメリカの歴史がつづられている。）

<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480017581/>

- ・まるごと相談は、「出口」があることが前提なので参加支援の充実が喫緊の課題と思う。

→さらに、アンテナショップの取り組みの爆発的増加が重なると、誰もが住みやすい街、「孤立のないまち」の実現が近づくのではないかな。

<委員長>

- ・日米の違い「日本は何かと規制が多く。アメリカは何でも自由にできる。」
(例) 万が一、食中毒が起きたらいけないので、食べ物の持ち込み禁止等
- ・風穴を開けるには、何かしないといけない。固定観念を変えていくことが必要。

<委員長>

- ・全てのところに福祉機能を入れ込めば、多機能化することができ福祉色が消える。

<委員>

- ・福祉色は福祉以外のところをやれば、簡単に消すことができる。

<委員>

- ・【参考】宮崎県三股町の参加支援充実の取り組み

https://commulab.jp/magazine_tag/%E9%87%8D%E5%B1%A4%E7%9A%84%E6%94%AF%E6%8F%B4%E4%BD%93%E5%88%B6%E6%95%B4%E5%82%99%E4%BA%8B%E6%A5%AD/

- ・【参考】愛知「小牧市中央図書館」市民の声を取り入れた飲食、おしゃべり OK の賑わいを生む滞在型図書館

https://www.homes.co.jp/cont/press/buy/buy_01373/

- ・【参考】地域活性化・産業活性化～愛知県安城市の取り組み～集客力のある「図書館」を核に市内中心街を活性化に導く

<https://www.nec-nexs.com/supple/autonomy/interview/anjo/>

【4. その他】

- ・次回委員会は、来年2月を予定しているが、詳細は未定。
- ・年明けてから日程調整をさせていただく旨を説明した。